

岡山市御津「産廃ノ」
四千署名提出
下流域住民に不安
規模は香川県豊島の二倍



写真＝岡山市に要望する住民代表ら（撮影・高梨久美子）

産廃処分場が計画されている岡山市御津小田地区の住民らが二十二日、岡山市と市議会に、五千千人を超える署名をそえて、産廃処分場建設反対を要望しました。

八十八万立方メートルの産廃処分場が計画されているもので、岡山市御津小田地区の下流域の住民らで組織する小田地内産廃処分場建設反対会議（森本重行代表、約八百人）が、高谷茂男市長に五千三百

五十四人、宮武博市議会議長に五千二百五十人の署名をそえて建設反対を要望しました。

要望は、建設計画が進められている地域に係する住民への説明会を開くこと、許認可に当たっては、関係する宇垣北地区すべての集落の同意を得ること、建設内容についての情報公開を指導強化して欲しい、すでに計画地内に建設残土、産廃が不法投棄されているといわれるので実態調査をして現状を明らかにして欲しいの四点。

「八十八万立方メートル」は、日本最大の産業廃棄物不法投棄事件の舞台となった香川県豊島での量（約五十万立方メートル）の二倍にもなります。

同処分場は、旭川支流・小田川上流の牧場跡地の谷に、高さ九十メートルの堤を築き、廃プラスチック、石綿を含んだ有害産廃を十五年間にわたって投棄する計画です。

会社（OMEコクリン）は産廃行政に精通し

た元岡山市職員を雇い、法的な手続きには手落ちのないようにしています。しかし、地下水への対策や下流域の住民にはなんの説明もないままで、行政との事前協議が秘密裏に進められている」と、反対会議では指摘しています。計画が明らかになった昨年十月に、住民集会や反対署名が始まりました。署名数は旧御津町の有権者数の六割を超えています。

市民の会が現地を調査

市民本位の市政をつくる会（宇野武夫代表）が二十日、岡山市御津の産業廃棄物処分場計画地を調査し、約三十人が参加しました。

水田の休耕地が山すそに広がる谷間一帯を産廃で埋め尽くす計画ですが、すぐ下流域には宇垣地区の集落が広がり、有害物質が含まれた汚水の流失が心配されます。

（中庭克之）